

2013年3月25日

株式会社リクルートホールディングス

Global Career Survey

(20代、30代の大学卒業生・転職実態調査)

□■アジア8か国の若年者の就労実態について、 多国間で比較可能な世界で類を見ない調査を実施■□

株式会社リクルートホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役社長 兼 CEO:峰岸真澄)の人と組織に関する研究機関・リクルートワークス研究所では、世界で類を見ない試みとして、アジア8か国を含めた世界13か国の20代、30代大学卒業生の入・転職実態に関する調査を行いました。ここではアジアに焦点をあて、中国、韓国、インド、タイ、マレーシア、インドネシア、ベトナム、日本の調査結果をご報告いたします。

調査トピックス

◎アジア若年者の就労実態について、多国間で比較可能な世界で類を見ない調査を実施

アジア若年者の就職、転職実態について、これまでは比較可能なデータがなく、明らかにされてこなかった。そこで、リクルートワークス研究所では、アジア若年者の就労実態に関する基本的情報を収集し、アジアに関して共通性と差異を明らかにするために、多国間で調査を行った。対象は、中国、韓国、インド、タイ、マレーシア、インドネシア、ベトナム、日本である。また、アジアの相対的位置を確認するために、アメリカ、ブラジル、ドイツ、ロシア、オーストラリアにおいても調査を実施している。

◎20代、30代の都市圏在住の大学卒業生、被雇用者の就職、転職実態を明らかにした

たとえ、その国に統計値が存在していても、国の内情が多様性に富む場合には、その平均値が意味をなさないことがある。つまり、誰のことを語っているのか、焦点を絞ることが重要になる。今回は、各国の経済の発展を担う、大学卒業20代、30代で、都市部で働いている人を対象に調査を実施した。さらに、本報告書では、分析対象者を被雇用者に限定している。

◎日本で若年雇用の研究を重ねてきたリクルートワークス研究所が調査を設計、実施

リクルートワークス研究所は、日本を中心に人材ビジネスに携わってきた(株)リクルートホールディングスに属する人と組織に関する研究所である。日本で若年雇用の研究を重ねてきた当研究所が、アジアについても視点を広げ、調査を企画設計した。

集計トピックス

- 就職経路は「大学」の割合が高いのがインド、中国、韓国、「就職サイト・情報誌」が高いのが日本、マレーシア、「家族や知人の紹介」の割合が高いのがベトナム、インドネシア ……p.3
- 転職回数は、インドネシアが1.64回と最も多く、マレーシア1.59回、タイ1.54回と続く ……p.3
- 初職の大きな退職理由は、日本を除くすべての国で「賃金への不満」「労働条件や勤務地への不満」……p.4
- 転職前後の年収変化で「増えた」割合は、中国が83.7%と最も高く、インドネシア78.3%、インド75.9%と続く……p.5
- 仕事をするうえで大切だと思うものは、日本を除くすべての国で「高い賃金・充実した福利厚生」が最多で、2番目は「明確なキャリアパス」が中国、インドネシア、「雇用の安定性」がインド、タイ、マレーシア、「適切な勤務時間・休日」が韓国、「教育研修の機会」がベトナム…… p.5
- 2011年の年収平均が最も高いのは日本、年収のばらつきが最も大きいのはインド……p.6

【本件に関するお問い合わせ先】

<https://www.recruit.jp/support/form/>

【目次】

調査概要	2
【就職活動】大学卒業後の初めの就職先を見つけた経路	3
【転職経験】これまでの転職回数	3
【転職経験】転職回数分布（年代別）	4
【転職経験】初めの仕事を退職した理由	4
【転職経験】転職前後の年収変化	5
仕事をするうえで大切だと思うもの（価値観）	5
2011年の年収（US \$換算）	6
参考【アメリカ、ブラジル、ドイツ、ロシア、オーストラリアの国別調査データ】	7・8

※Global Career Survey では、大学卒業後の就業履歴や、転職経路、仕事に関する価値観などを明らかにしている。今回は、その中から主要な結果を抜粋して報告する。

【調査概要】

《Global Career Survey》

調査目的	世界の都市圏で働く大卒20代、30代の人・転職実態について明らかにすること
調査対象	大学卒以上で現在働いている20～39歳の男女（短大卒除く）
調査エリアA	中国（上海）、韓国（ソウル）、インド（デリー、ムンバイ）、タイ（バンコク圏） マレーシア（クアラルンプール圏）、インドネシア（ジャカルタ圏）、ベトナム（ハノイ、ホーチミン）
調査エリアB	アメリカ（ニューヨーク、カリフォルニア）、ブラジル（全国、ただしサンパウロとリオデジャネイロ中心）、 ドイツ（全国）、ロシア（モスクワ圏）、オーストラリア（全国、ただしシドニーとメルボルン中心）
サンプリング 回収数	各国、性別・年齢10歳階級別に150名ずつ均等に割り付けを行い、合計600名を回収目標とした 中国（617名）、韓国（613名）、インド（610名）、タイ（606名）、マレーシア（610名）、 インドネシア（605名）、ベトナム（614名）、アメリカ（601名）、ブラジル（600名）、 ドイツ（606名）、ロシア（600名）、オーストラリア（603名）
調査期間	調査エリアA 2012年9月14日～9月21日 調査エリアB 2012年12月3日～12月11日
調査方法	インターネットモニター調査

《ワーキングパーソン調査2012》

調査目的	日本の首都圏で働く人の就業に関する実態と意識を明らかにする
調査対象	首都圏50km（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）圏内で、正規社員、契約社員・嘱託、派遣、 パート・アルバイト、業務委託として働いている18～59歳の男女
サンプリング 回収数	社員グループとパート・アルバイトグループに分け、性別・年齢5歳階級別・エリア別に割り付けを実施 9790名（男性：5631名、女性：4159名）
調査期間	2012年9月19日～9月27日
調査方法	インターネットモニター調査

※日本では、隔年実施しているワーキングパーソン調査（2012）に比較用の設問を追加した形で調査を実施したため、
調査対象者の条件や割付方法がほかと異なる
※本報告書では、Global Career Surveyと同じ条件の600サンプルを取り出している

【本報告書の分析対象者について】

分析対象者を「被雇用者」に限定した。

各国の分析対象者は、中国（518名）、韓国（562名）、インド（483名）、タイ（501名）、マレーシア（471名）、
インドネシア（485名）、ベトナム（549名）、日本（600名）

アメリカ（496名）、ブラジル（463名）、ドイツ（535名）、ロシア（496名）、オーストラリア（514名）

ーリクルートワークス研究所についてー

日本を中心に人材ビジネスに携わってきた株式会社リクルートホールディングスに属する、「人」と「組織」に関する研究部門。1999年1月に設立後、「人材マネジメント」「労働市場」領域に関する、情報発信や提言活動を行っている。

【就職活動】 大学卒業後の初めの就職先を見つけた経路

「大学」の割合が高いのが、インド(36.3%)、中国(36.1%)、韓国(32.2%)、
 「就職サイト・情報誌」の割合が高いのが日本(37.7%)、マレーシア(34.7%)、「就職サイト・情報誌」と「家族や知人の紹介」が拮抗するタイ、
 「家族や知人の紹介」が高いのが、ベトナム(36.2%)、インドネシア(30.2%)。

■どのように卒業後の初めの就職先を見つけたのか（集計対象：最初の仕事が自営業主を除く）

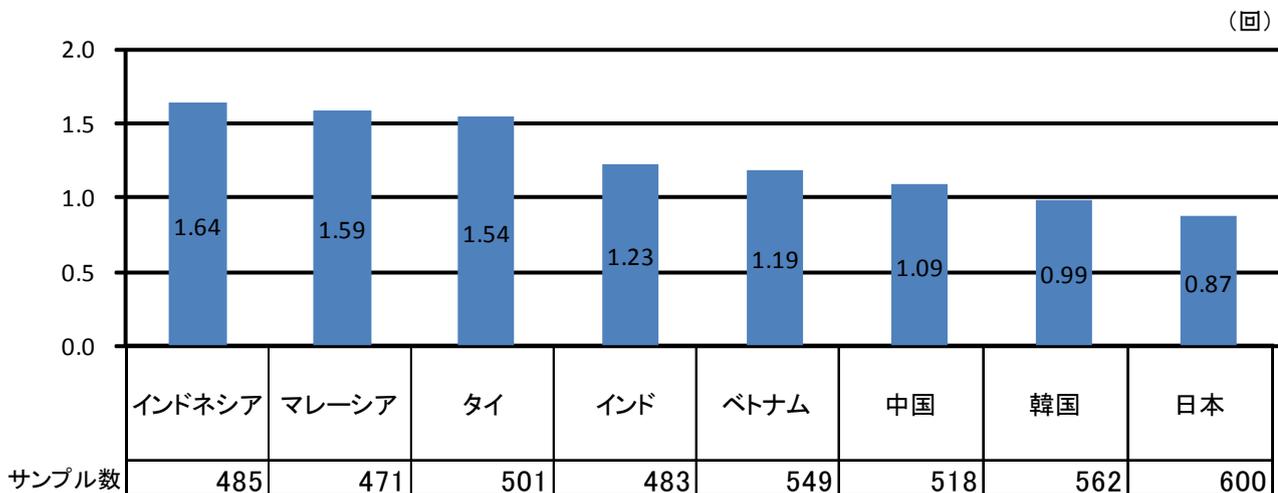
	サンプル数	大学・計 (※)	家族や知人の紹介	就職サイト や就職情報誌	職業紹介 所	合同説明 会	在学中のイ ンターン シップやア ルバイト	会社に直接 問い合わせ など、その 他	(%)
中国	513	36.1	20.1	20.9	4.3	2.3	8.4	8.0	各国1位
韓国	556	32.2	14.6	29.9	2.2	2.7	5.6	12.9	2位
インド	476	36.3	8.8	24.6	12.2	2.1	4.6	11.3	
タイ	481	19.5	24.3	24.5	5.6	0.4	6.4	19.1	
マレーシア	455	16.3	15.6	34.7	7.9	0.9	7.0	17.6	
インドネシア	460	23.9	30.2	21.7	3.5	0.0	5.2	15.2	
ベトナム	541	16.5	36.2	19.8	3.0	1.5	7.2	15.9	
日本	597	19.8	8.4	37.7	3.9	6.7	3.2	20.4	

※大学・計・・・「大学・学校のキャリアセンターによる職業紹介」「大学・学校による就職サイトや就職情報誌」
 「大学・学校が主催する合同説明会」「先生の紹介」の合計

【転職経験】 これまでの転職回数

インドネシア(1.64回)が最も多く、マレーシア(1.59回)、タイ(1.54回)と続く。
 最も少ないのが日本(0.87回)で、インドネシアの約半分である。ただし、いずれも1回前後と、大きな差とは言えない。

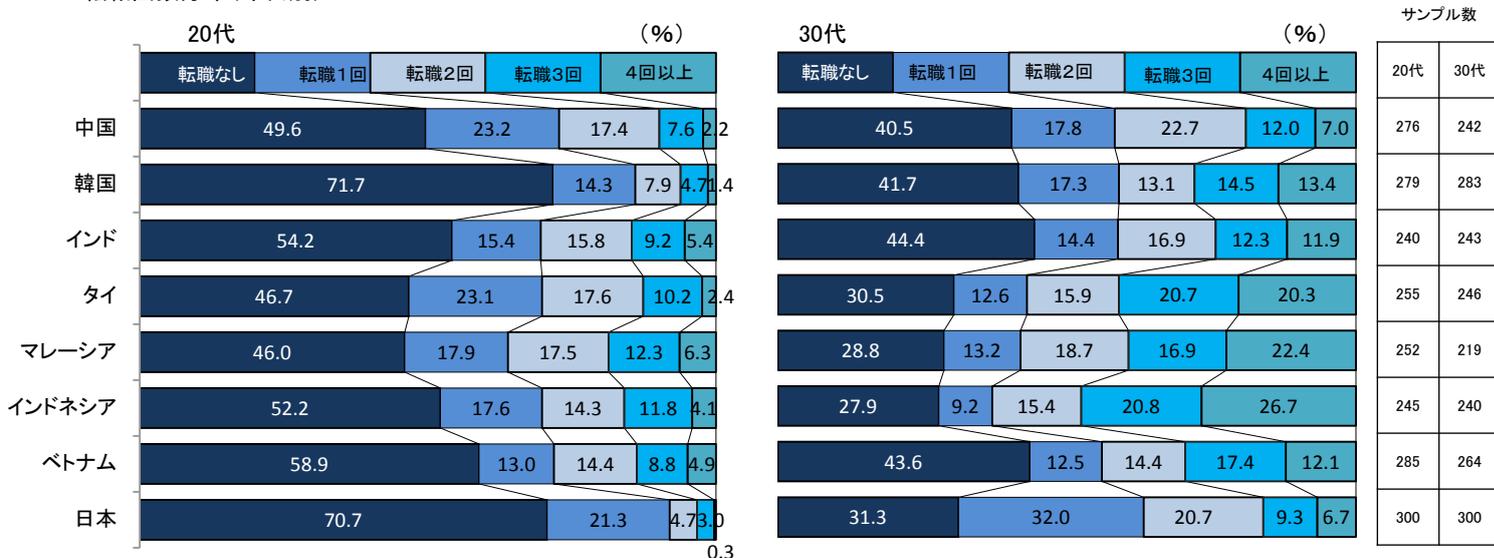
■転職回数(平均)



【転職経験】 転職回数分布(年代別)

20代では韓国と日本において、転職未経験者が7割超と多い特徴があるが、30代になるとほかの国と大差がなくなる。
タイ、マレーシア、インドネシアは、転職回数が多い人の割合が高いことに目が行くが、一方で、転職未経験者も一定の割合で存在する。
転職を繰り返す人と、全く転職をしない人に分かれるのである。

■ 転職回数分布(年代別)



【転職経験】 初めの仕事を退職した理由

日本を除くすべての国で、「賃金への不満」と「労働条件や勤務地への不満」が大きな退職理由。
日本では、「賃金への不満」で退職するのは5.1%にとどまる。

■ 卒業後の初めの仕事を退職した理由 (集計対象:退職経験者)

国	サンプル数	自己都合 (%)									会社都合 (%)			その他	
		賃金への不満	労働条件や勤務地への不満	人間関係への不満	仕事内容への不満	会社の将来性や雇用安定性への不安	自分のけがや病気	結婚・出産・育児・介護のため	独立のため	進学や資格取得のため	契約期間の満了	会社の倒産	早期退職・退職勧奨・解雇		
中国	283	31.1	15.9	3.5	11.7	19.8	0.0	0.7	0.0	1.8	4.6	3.5	3.9	3.5	各国1位
韓国	244	14.8	16.0	2.5	11.1	14.8	1.6	1.2	0.8	6.1	13.1	6.6	2.5	9.0	2位
インド	245	37.1	16.3	2.0	8.6	7.3	0.0	5.7	0.8	4.9	6.1	1.6	0.0	9.4	
タイ	307	33.2	13.7	5.2	10.1	6.2	1.3	1.6	2.6	5.9	4.2	1.6	0.7	13.7	
マレーシア	292	29.1	16.1	2.1	10.3	11.6	0.0	2.1	2.7	3.1	4.8	1.7	0.3	16.1	
インドネシア	290	31.7	20.0	2.1	7.2	12.8	0.3	0.7	1.4	2.1	11.0	2.4	0.3	7.9	
ベトナム	266	29.3	23.7	2.6	8.6	10.2	0.4	1.1	3.0	3.0	3.4	5.6	1.1	7.9	
日本	294	5.1	16.7	10.2	12.9	11.2	5.8	7.8	0.7	6.8	7.1	2.4	4.8	8.5	

【転職経験】 転職前後の年収変化

多くの国で、「増えた」割合が高く、中国では8割強、インドネシアやインド、マレーシアでも7割超。
日本は設問が違うため、単純比較はできないが、「増えた」「減った」が同率存在。

■現在の仕事に転職する前と転職した後の年収変化（集計対象：退職経験者）

	(%)							参考(%)
	中国	韓国	インド	タイ	マレーシア	インドネシア	ベトナム	日本※
サンプル数	283	244	245	307	292	290	266	280
増えた	83.7	53.7	75.9	59.9	71.6	78.3	56.8	33.9
減った	3.5	12.7	4.5	7.8	3.8	4.1	5.6	33.9

選択肢は「増えた」「ほとんど変わらなかった」「減った」の3つ

※日本人対象の調査ではこの設問は聞いていない。転職前および1年後の年収を実数で聞いた設問から、「10%以上増加」を「増えた」、「10%以上減少」を「減った」として割合を算出。その結果を参考値として掲載しているが、比較には注意が必要である。

仕事をするうえで大切だと思うもの（価値観）

日本を除くすべての国で「高い賃金・充実した福利厚生」が最多。

2番目に高い選択項目は、「明確なキャリアパス」が中国、インドネシア、「雇用の安定性」がインド、タイ、マレーシア、

「適切な勤務時間・休日」が韓国、「教育研修の機会」がベトナム。

日本は1番目が「良好な職場の人間関係」で、2番目が「自分の希望する仕事内容」。

■仕事をするうえで大切だと思うもの（最大3つまで選択可）

（上位3項目の選択率：%）

	サンプル数	高い賃金・充実した福利厚生	雇用の安定性	自分の希望する仕事内容	適切な勤務時間・休日	良好な職場の人間関係	明確なキャリアパス	自分の希望する勤務地	教育研修の機会	正当な評価	会社のステイタス
中国	518	79.0	31.3	31.9	30.3	29.9	50.4	18.3	10.6	5.6	12.7
韓国	562	75.1	46.1	41.3	50.2	30.6	11.6	18.0	6.8	13.3	7.1
インド	483	58.8	37.9	29.6	23.6	26.3	31.5	20.3	19.7	22.4	30.0
タイ	501	72.5	47.3	35.5	27.5	26.3	21.6	21.4	11.4	16.6	20.0
マレーシア	471	78.8	37.4	34.2	25.7	25.3	28.7	18.9	21.7	16.1	13.4
インドネシア	485	83.1	23.3	33.4	23.1	36.5	38.8	14.0	19.0	12.8	16.1
ベトナム	549	78.5	37.5	35.5	19.7	18.4	30.2	12.9	44.4	16.4	6.4
日本	600	39.0	36.3	51.3	49.0	56.0	10.5	20.7	7.0	25.3	4.8

各国1位

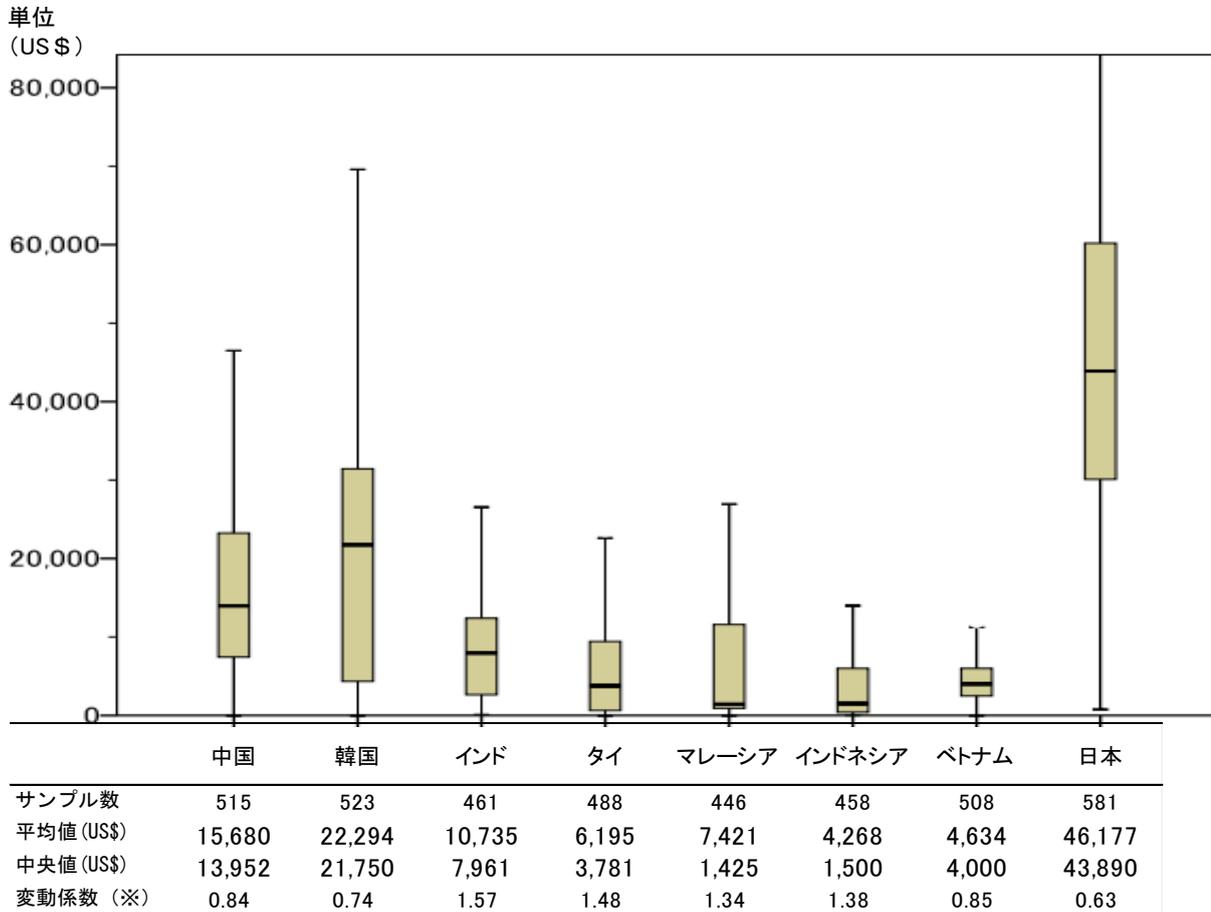
2位

2011年の年収(US\$換算:レート換算基準日は2012年8月14日)

最も年収平均値が高いのは日本(46,177ドル)で、韓国(22,294ドル)が続き、
 反対に、最も低いのはインドネシア(4,268ドル)、続いてベトナム(4,634ドル)である。日本はベトナムの約10倍。
 各国内でのばらつきは、インド(1.57)が最も大きく、タイ(1.48)、インドネシア(1.38)、マレーシア(1.34)と続く。
 反対にばらつきが小さいのは、日本(0.63)、韓国(0.74)。

Box plot :
 箱の中の横線は中央値、箱の上線が75%値、
 下線が25%値、箱の中に年収の50%が入る

■2011年の年収のBox plotと記述統計



※変動係数・・・平均値の影響を除いた、ばらつきの尺度

参考【アメリカ、ブラジル、ドイツ、ロシア、オーストラリアの国別調査データ】

本調査は、アジア8か国の比較分析を目的としているが、世界の中でのアジアの位置づけをみるために参照国として、アメリカ、ブラジル、ドイツ、ロシア、オーストラリアにおいても調査を実施した。

■どのように卒業後の初めの就職先を見つけたのか（集計対象：最初の仕事が自営業主を除く）^(%)

	サンプル数	大学・計	職業紹介所	就職サイトや就職情報誌	合同説明会	家族や知人の紹介	在学中のインターンシップやアルバイト	会社に直接問い合わせなど、その他
アメリカ	484	27.5	6.0	22.5	1.7	11.6	9.7	21.1
ブラジル	453	21.6	7.7	13.9	1.1	15.0	14.8	24.9
ドイツ	530	20.6	5.1	13.0	0.9	7.5	17.2	35.7
ロシア	490	15.1	4.3	14.7	0.8	31.0	10.4	23.5
オーストラリア	504	24.2	9.5	29.6	1.6	10.1	6.7	18.1

■転職回数（平均）

(回)

	サンプル数	平均
アメリカ	496	1.16
ブラジル	463	1.17
ドイツ	535	0.63
ロシア	496	1.51
オーストラリア	514	1.50

■転職回数分布（年代別）

20代 ^(%)							30代 ^(%)						
	サンプル数	0回	1回	2回	3回	4回以上		サンプル数	0回	1回	2回	3回	4回以上
アメリカ	247	64.8	13.8	10.1	6.1	5.3	アメリカ	249	43.8	18.5	14.1	11.6	12.0
ブラジル	247	67.6	11.3	7.7	7.3	6.1	ブラジル	216	48.6	7.9	13.9	15.3	14.4
ドイツ	275	77.8	13.8	4.7	2.5	1.1	ドイツ	260	58.8	16.5	12.3	6.2	6.2
ロシア	259	57.5	14.3	11.6	7.7	8.9	ロシア	237	36.3	11.0	13.9	17.7	21.1
オーストラリア	253	61.7	16.2	9.9	6.3	5.9	オーストラリア	261	36.8	13.4	12.3	15.7	21.8

■卒業後の初めの仕事を退職した理由（集計対象：退職経験者）^(%)

	サンプル数	賃金への不満	労働条件や勤務地への不満	人間関係への不満	仕事内容への不満	会社の将来性や雇用安定性への不安	自分のけがや病気がや病気が	結婚・出産・育児・介護のため	独立のため	進学や資格取得のため	契約期間の満了	会社の倒産	早期退職・退職勧奨・解雇	その他
アメリカ	227	18.1	13.7	1.8	8.4	7.5	0.0	2.2	0.4	6.2	13.7	4.4	2.2	21.6
ブラジル	191	16.8	13.6	3.7	1.0	11.5	0.0	2.1	2.1	2.6	18.3	4.7	4.7	18.8
ドイツ	168	14.9	15.5	2.4	6.0	3.6	0.6	1.2	0.0	5.4	28.6	4.8	2.4	14.9
ロシア	261	32.2	16.1	1.5	6.5	10.3	1.1	4.6	2.3	2.7	5.0	5.7	1.1	10.7
オーストラリア	262	17.6	10.7	1.9	10.3	2.7	1.1	2.3	0.8	7.3	14.5	2.7	1.1	27.1

■現在の仕事に転職前と転職後の年収変化（集計：退職経験者）^(%)

	サンプル数	増えた	減った
アメリカ	227	65.2	9.3
ブラジル	191	62.8	8.4
ドイツ	168	61.3	9.5
ロシア	261	64.0	5.4
オーストラリア	262	64.5	10.3

■仕事をするうえで大切だと思うもの(最大3つまで選択可)

(上位3項目の選択率:%)

	サンプル数	高い賃金・充実した福利厚生	雇用の安定性	自分の希望する仕事内容	適切な勤務時間・休日	良好な職場の人間関係	明確なキャリアパス	自分の希望する勤務地	教育研修の機会	正当な評価	会社のステイタス
アメリカ	496	56.9	48.4	52.8	24.8	25.8	19.8	33.1	16.3	12.3	9.9
ブラジル	463	61.8	39.5	34.6	16.6	44.1	43.2	17.7	19.9	16.8	5.8
ドイツ	535	58.5	45.2	38.7	37.4	56.6	6.9	20.0	19.3	11.6	5.8
ロシア	496	80.0	11.7	62.7	22.8	40.3	14.9	20.2	13.1	24.2	10.1
オーストラリア	514	52.5	42.8	46.3	33.1	32.5	24.5	27.6	16.0	13.6	11.1

■2011年の年収(US\$換算:レート換算日 ブラジル、オーストラリア2012年11月7日、ドイツ2012年11月2日、ロシア2012年11月9日)

	サンプル数	平均値(US\$)	中央値(US\$)	変動係数
アメリカ	458	59,514	50,450	0.70
ブラジル	426	19,825	11,598	1.80
ドイツ	489	46,112	45,826	0.69
ロシア	461	17,385	15,061	0.98
オーストラリア	447	62,654	62,253	0.52